

里山林の保全活動における地域社会と環境教育

成沢グリーンフィールド協力隊 事務局 相馬清孝

1 団体紹介

成沢グリーンフィールド協力隊は、里山林を保全しながら利活用していくためのボランティア団体として平成18年の2月に発足しました。今年で6年目の活動になります。

会員数は賛助会員、名誉会員を含めて112名。毎回活動に参加して下さる会員は、30名から40名になります。

活動エリアは山形県の内陸、西蔵王に位置する瀧山のふもとに成沢地区内の灌漑用水池として二つ

沼があります。この沼を中心とした5ヘクタールの森林が活動エリアになります。今年は2ヘクタール増える予定です。(写真①)



写真①

2 活動のきっかけ

平成17年にこの二つ沼の改修工事が終了したのに伴いまして沼周辺を行楽の地にしていきたいという地域の人々の願いがありました。(写真②)

そこでこの豊かな森林を守り、快適で潤いのある町づくりをめざして、地域住民の参加と連携による森林づくりを推進していこうということがきっかけになります。

活動エリアの一部は国有林の部分林になっていますので、森林管理署と山形市とグリーンフィールド協力隊で三者協定を結んでいます。(写真③)



写真②



写真③

3 活動の目的

先人達が守ってきた里山林を自分達の手で管理して次の世代へ継承していきたいという理念のもとに、子ども達に知識だけでなく体験学習をしてもらうことで自然の大切さ、すばらしさ、尊さを実感してもらい郷土愛を育んでいこうという目的があります。

4 団体の特色

- (1) 成沢限定にすることで機能的で活動しやすい体制をとっている点。
- (2) 自分達の自らの手で先人達が守ってきた里山自然林を次の世代へ引き継ごうという点。
- (3) 特定の会員がリードする体制ではなくてみんなが、参加できるような仕組みづくりとしている。

具体的には除伐材で四阿を建設するプロフェッショナルやチェーンソーの使い手、自然観察の講師を引き受けてくれる方が会員になっている点です。(写真④)



写真④

5 活動の内容

- (1) 5月から11月は毎月、1回の活動を基本とした環境教育の実践活動が地元の蔵王第一小学校の総合学習のカリキュラムになっています。毎年、11月に会員がエリア内のくるみ、ならの木を切ってほだ木を切り出します。(写真⑤)

この原木に五年生がきのこの菌を植え付ける体験活動をしています。

(菌種はなめこ、むきたけ、くりたけ)

一年後、六年生になってから二つ沼周辺の現地に行き栽培したきのこを収穫して、その場所で試食会を継続してきています。(写真⑥)



写真⑤



写真⑥

(2) 地域住民を対象に山の幸の恩恵を実感してもらうために、春と秋の2回、イベント感謝祭を実施しています。(写真⑦)

午前中は二つ沼から放水したところの池にニジマスやイワナなどを放して釣り体験をしてもらったりフィールド内の自然観察会で生態系の学習を実施しています。春は山菜汁、秋はきのこ汁を沼のほとりで参加者全員で満喫してもらっています。(写真⑧)



写真⑦



写真⑧

(3) ケヤキ、沼のほとりに植えた大山ザクラの施肥と下刈りによる育林作業を実施しています。(写真⑨)

(4) 挿し木で育てたヤマブキの植栽（初年度は500本）で今年度も500本の植栽を行いました。来年度も500本植える予定です。(写真⑩)



写真⑨



写真⑩

(5) 平成20年から東海大山形高等学校の生徒が加わり異学年の交流を実施しています。(写真⑪)



写真⑪

6 効果

- (1) 地域の連携がこれまで以上に密になり、地域住民との親睦の和、信頼関係を築いていく効果が出ています。

子供達には収穫の喜びと夢を与えていると共に自然に対する感謝や親子の絆、なによりも故郷のすばらしさが思い出となって残ることを願うと共に森林を通じた情操教育に効果を発揮しています。(写真⑫)



写真⑫

- (2) こうした我々の活動が評価されて、昨年はホンダのエコロボット、アシモ君が1月13日に全国7箇所の1箇所に選ばれて蔵王第一小学校に来校しました。

体育館で地球温暖化やエコの話をしてもらいました。(写真⑬)



写真⑬

7 活動実績

- (1) 二つ沼を周遊できるような散策路を整備しました。全長120メートル、幅3メートル。(写真⑭)
- (2) 森林資源(間伐材)を有効利用して四阿の建設やベンチ、テーブルを作りました。二つ沼周辺が四阿を中心とした自然公園に近づいた感があります。(写真⑮)



写真⑭



写真⑮

- (3) ヤマブキ苗の養成のほか、コナラ・ミズナラの育苗も実施しています。
- (4) 活動エリア内の散策マップを1,000枚作成しました。(写真⑯)



写

真⑩

8 今後の活動計画

- (1) 3年目、挿し木苗やまぶき500本の植え付けとどんぐりの実生を栽培して植え付ける予定です。(写真⑪)
- (2) 地区の振興会との共催で敬老フェスティバルを行いきのこ汁を振舞う予定。
- (3) 新たな協定によって2ヘクタールの活動エリアを拡張する予定です。



写真⑪

9 課題

- (1) 毎年の活動がマンネリ化しやすい。
- (2) 地区外者から栽培中のきのこを無断で持ち去られる。
- (3) 西蔵王一带の関連施設（野草園）との関連をどう深めていくか。
- (4) 会員以外の一般の方々に楽しんでもらうためにはどうしていくか。